

# 社会貢献



日産は「人々の生活を豊かに」というビジョンのもと、魅力ある製品やサービスを世界中に提供すると同時に、持続可能な社会の実現に向け、企業市民としての役割を果たしていきたいと願っています。日産はグローバル社会の一員として、より良い社会の創造に寄与するさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。具体的には「人道支援」「教育への支援」「環境への配慮」の3つを柱に、自動車メーカーならではの社会貢献活動をグローバルに、そして地域とともに展開しています。従業員の社会参加意識を育てながら、NPO・NGOなどの外部組織とも連携し、各国・地域の実情やニーズに合わせた活動を行っています。

## 取り組みの柱

### 1. 人道支援

日産は、世界各地で発生した大規模自然災害の被災地に対する支援活動を行っています。グローバルに広がる事業所やグループ企業のネットワークを生かしながら、それぞれの国や地域の実情に配慮して、効果的な活動を展開しています。

### 2. 環境への配慮

日産は環境理念「人とクルマと自然の共生」を掲げ、多岐にわたる環境負荷削減に向けた取り組みを継続的に行っています。社会貢献活動においても、「環境への配慮」を重点分野と定め、環境意識の醸成、啓発活動を中心とした各種プログラムを実施しています。

### 3. 教育への支援

日産は「次世代育成」という観点を重んじて社会貢献活動を行っています。未来を担う次世代の子供たち、若者の心を豊かに育む活動を心がけ、教育機関などとも連携しながら、実りある活動を継続的に実施しています。



## 活動方針

社会貢献活動にあたっては、世界各地の日産の事業所とグローバルでビジョンを共有しながら、日産らしい貢献ができるよう心がけています。活動の企画・実施においては次のような項目を重要と考えています。

### 1. 従業員の自発的な参加意識を育てる

従業員一人ひとりの社会貢献活動を積極的に支援し、より多くの従業員が市民意識を持つことにより、大きな社会貢献の輪を育てていきます。

### 2. 会社の強みや特性を生かした活動を考える

金銭的な支援だけでなく、ノウハウや日産の製品・関連施設の活用など、日産が本業で培った資源を十分に生かすことによって、持続的な活動を行うことを目指しています。

### 3. 専門性のあるNPOやNGOとの協働

日産の社会貢献活動をより実りあるものとするために、NPO(民間非営利組織)やNGO(非政府組織)と対話を常に行い、連携した協働プログラムの可能性を探求していきます。

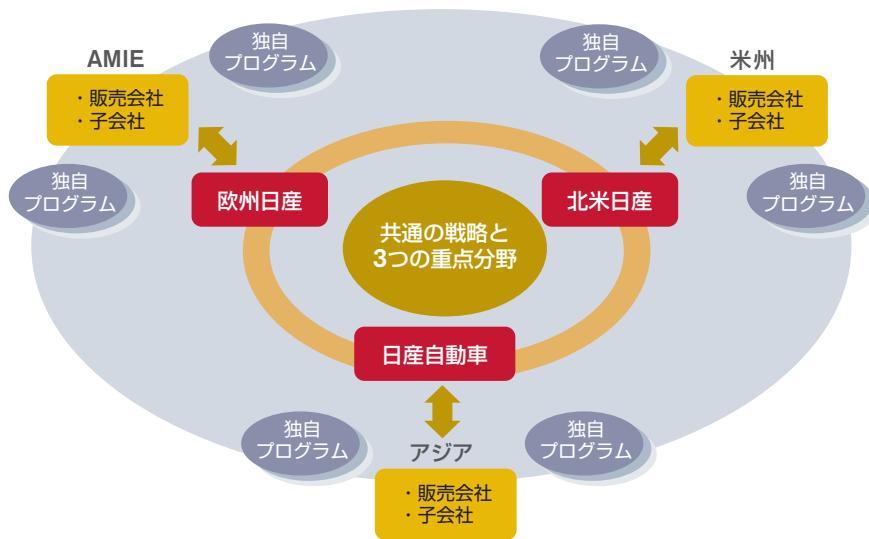
推進体制

日産グローバル本社のCSR部がグローバルの社会貢献活動の統括役を担い、それぞれの拠点で行われているプログラムはリージョナルオフィスによって統括されています。

日本国内の活動は、企画・実施する各部署や地域との窓口を担っている各事業所の担当者とCSR部が情報共有したうえで、必要なサポートを提供しています。海外については日産本社がアジア地域、欧州日産自動車会社がAMIE(アフリカ・中東・インド・欧州)、北米日産会社が米州地域の中核となり、各地域の事業会社と情報交換しながら推進しています。グローバルに連携を取る体制が整っており、社会貢献においてもクロスファンクショナル・クロスリージョナルに取り組んでいます。

またイントラネットに社会貢献活動専用のページを設けており、従業員にボランティア情報などを提供するほか、1996年からは従業員の活動を会社が資金面で支援する「日産ボランティア活動資金支援制度」を設け、市民意識の醸成を促しています。

推進体制



2011年度のレビューと今後の課題

2011年度の活動は、3月11日に発生した東日本大震災への対応から始まりました。地震発生の翌日に発表した緊急援助に続き、車両の寄付および無償貸与を通じて被災地での移動・輸送、各種移動サービスの手段を提供しました。各拠点が連携しながら日産らしい支援を進めることができたと同時に、それぞれの活動が従業員の市民意識を高め、それを後押しする社内制度の整備へとつながりました。2012年度はボランティア活動にかかわる制度・仕組みの拡充や、ハビタット・フォー・ヒューマニティに続くグローバルなプログラムを新たに導入することなどを検討していきます。

人道支援に関する取り組み

大規模災害時の支援

日産は世界各地で発生した大規模自然災害で被災した地域に対する支援を行ってきました。

大規模自然災害への支援をする際は、意思決定までのスピードを重要と考えています。さまざまな機能部署や事業所から迅速に被害状況の情報を収集し、正しい現状理解を踏まえて適切な支援の検討を行い、マネジメントの判断につなげます。

2011年の東日本大震災においては、発生翌日の3月12日に初動支援としてNGOジャパン・プラットフォームに対し3,000万円の支援を決め、その4日後には車両寄贈、従業員寄付に対する同額の会社からのマッチングギフト、海外子会社からの支援など、合計で4億円相当の支援を実施する準備を整えました。会社に備蓄していた食料やミネラルウォーター、毛布、マスク、消毒液、その他の日常生活用品を被災地に提供したほか、「日産パトロール」50台を現地で活動する国連機関および非営利団体に寄贈、100%電気自動車「日産リーフ」65台を被災地自治体に無償貸与するなど、日産ならではの支援活動を展開しました。

また従業員が支援活動に参加しやすいよう、人事部門と連携を取ってボランティア特別休暇を整備。従業員有志による被災地ボランティア活動は全16回を数え、延べ854人が参加しました。日産自動車(株)で実施した従業員募金は31,508,949円に上り、会社からのマッチングギフトとともに日本赤十字社に寄付しました。

2011年10月にタイで発生した洪水に対しては、被災した従業員をサポートするとともに、地域支援として義援金5,000万円と150万円相当の救援物資の寄付を行いました。

東日本大震災における支援活動に関する詳しい情報は、下記のウェブサイトをご覧ください。  
<http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/SUPPORT-ESTJPN/>

### 地域社会での人道支援

地域社会における人道支援にあたり、日産はさまざまな国際NGOと協働しています。そのひとつが貧困や災害で家を失った人に住宅を提供するハビタット・フォー・ヒューマニティです。2005年に米国南部を襲ったハリケーン「カトリーナ」の被災者支援をきっかけに、協働がスタート。同NGOは、貧困や災害などの影響で安全で清潔な住環境を得られない人々のために、少ない負担で生活を確立できるような支援を世界各地で行っています。日産はこうしたビジョンに賛同するとともに、従業員の社会参画を支援する最適なプログラムとして、ハビタット・フォー・ヒューマニティとパートナーシップを組んでいます。2011年度には北米のみならず、タイ、インドネシアでもプロジェクトを支援し、それぞれの現地事業所の従業員がボランティア活動に参加しました。

## 環境への配慮に関する取り組み

### フリート・フォーラムとのパートナーシップ

NPOやNGOが活動に使用する車両の環境負荷軽減をサポートするため、日産はジュネーブに本部を置くNPO フリート・フォーラムとパートナーシップを組み、同組織を通して国連機関などを含む5団体に「日産リーフ」を一定期間、無償提供する取り組みを行っています。2012年度においては、スイス、英国、イタリアでこのプログラムが実施される予定です。

### 地域社会への貢献

神奈川県内の事業所では毎月23日を「日産デー」とし、周辺地域の清掃活動を行っています。2009年11月からは、横浜に拠点を移した日産グローバル本社もこの活動に加わり、地域に貢献する環境活動の一環として取り組みながら、従業員の環境意識の向上に努めています。

### 夏の節電促進キャンペーン

夏場の電力不足軽減に少しでも貢献するため、日産は従業員の各家庭で工夫しながら節電に取り組めるキャンペーンを行いました。「わくわく節電コンテスト」では、参加者に2011年7～8月の電力使用量を前年比でどれだけ削減できたかを、節電アイデアとともに申告してもらいました。およそ700名から応募が寄せられ、入賞した上位4名のご家庭では前年比60%前後の削減を達成しました。また、応募者全員の電力削減量は一般家庭およそ7,800世帯分の1日の電力使用量に相当しました。「夏休みわくわくエコ絵画コンテスト」では、従業員の家族(小学生)を対象に「家庭での節電」をテーマにした絵画を募集。節電のために家族みんなでどんな工夫をしたか、どんな変化があったかを絵で表現してもらいました。

コンセントをこまめに抜く、冷房の代わりに扇風機を使用するなど、従業員にとって節電を意識するきっかけになっただけでなく、参加者からは「家庭内のコミュニケーションに役立った」との声も聞かれました。



大賞作品 (高学年の部)

## 教育への支援に関する取り組み

### 日産ならではの教育プログラム

日産は、製造業としてのノウハウを生かした体験型教育プログラムを継続的に実施しています。2011年度も、小学校高学年の児童を対象とした3つの出張授業「日産モノづくりキャラバン」「日産デザインわくわくスタジオ」「日産わくわくエコスクール」を開講しました。

「日産モノづくりキャラバン」は、モノづくりの楽しさを体験する機会を提供するためのプログラム。2011年度は東日本大震災で被災した福島県へ、追浜工場と栃木工場から講師が出向き、福島市と郡山市の小学校計8校で授業を行

いました。また2011年10月には、日産メキシコのアグアスカリエンテス工場でも同様のプログラムをスタートさせました。「日産デザインわくわくスタジオ」では、日産の現役カーデザイナーがクルマの製造過程やデザインの仕事について紹介しています。「日産わくわくエコスクール」は NPO法人気象キャスターネットワークとの協働で行っている環境出張授業です。2011年度は3つのプログラム合計で約2万2,300人の児童に学びと気づきを楽しく提供しました。2007年の開始以来、授業に参加した生徒の数は累計で8万3,000人に上ります。

また2011年11月に神奈川県川崎市の工業高校で開催された「技能五輪メダリストによる出張キャリア講座」では、同年の技能五輪国際大会電子機器組立て職種部門で敢闘賞を受賞した日産の技術者およびトレーナーの2名が講師を務めました。この授業は、モノづくり産業を支える人財育成を目的に神奈川県が主催しているものです。デモンストレーションでは、生徒たちが2日間かけて行ったハンダ付けを講師がわずか15分で製作、技能五輪受賞者の「技とスピード」に生徒たちの視線が釘付けとなりました。

### メキシコでの教育支援

日産メキシコでは、工場のあるアグアスカリエンテス地域の人の人財育成のため、同州政府と連携し、2001年から工場内で「Nissan School」を開講しています。地元の高校生と大学生を対象に技術者とエンジニアの育成を行っており、2011年度までに延べ1,400人が卒業、およそ4割が日産メキシコに入社しました。

### 日産財団の活動

公益財団法人日産財団は、昭和49年の創立以来、主として自然科学分野の有意義な研究や教育活動に対し、幅広く助成を行っています。物事の本質を捉え、持続可能な発展をリードする人財の育成や、根本的な解決手段を提案する研究に対して重点的に支援を行っています。その実績は平成24年3月現在、累計で約2,500件、69億円に達しています。2011年度はインドの学術機関との技術的連携やルノー財団と連携したインターンシッププログラムを開始し、日産同様にグローバルな活動に着手しています。

日産財団の活動に関する詳しい情報は、下記のウェブサイトをご覧ください。  
<http://www.nissan-zaidan.or.jp/>

### ニッサン童話と絵本のグランプリ

日産は、アマチュア作家による創作童話と絵本のコンテスト「ニッサン童話と絵本のグランプリ」を財団法人大阪国際児童文学館とともに開催しています。子供たちに良質な童話や絵本を届けることを目的に、大賞作品を毎年出版し、全国の公立図書館(約3,300館)や幼稚園(約700園)、日産の海外事業拠点周辺の日本人学校・日本語補習校などへ寄贈しています。これまでの累計寄贈冊数は、約18万5,000冊に上ります。第28回となる2011年度は、全国から2,450編の応募が寄せられました。毎年春休みには、関連イベントとして財団法人児童育成協会(こどもの城)との協働により、絵本にちなんだ展示や工作などを体験できるワークショップ「ニッサンゆかいな絵本と童話展」も開催。日産従業員や早稲田大学の学生ボランティアが、クルマの素材などを再利用し、子供たちにモノづくりの楽しさを伝えています。

北米日産会社による就学前の子供たちに書籍を贈る「ガバナーズ・ブックス・フロム・バース基金(GBBF)」の活動への継続的な支援や、中国における恵まれない子供たちへの図書の寄贈など、「子供と本」に関する幅広い取り組みを世界各地で行っています。

### 各事業所による地域貢献

日産は国内各事業所や関係会社においても、地域社会の一員としてさまざまな地域貢献活動を行っています。

追浜工場では2011年12月、第12回全国車いすマラソン「日産カップ追浜チャンピオンシップ2011」を地域関係団体とともに開催しました。この大会は障がい者スポーツの普及と競技者の技術向上、地域の活性化を目的とする車いす陸上競技の総合大会で、延べ約200名の選手が全国から参加しました。ロードレースでは、毎年約500名の従業員ボランティアがコース整理や給水の補助を行うなど、大会の運営に協力しています。同大会を記念して設立された従業員による「太陽募金」では、毎年集まった寄付金を障がい者陸上競技団体などに寄付しています。

厚木市にある日産テクニカルセンターと日産先進技術開発センターでは、清掃活動や花の植栽、地域イベントへの協力など、周辺地域に貢献する「NICE WAVE」活動を推進しています。

## Messages from Our Stakeholders

ステークホルダーからのメッセージ

**日産の迅速な車両提供が被災地への力強い励ましに**

WFP 国連世界食糧計画  
東日本大震災緊急支援活動コーディネーター  
山崎 和彦氏



WFP国連世界食糧計画は、飢餓と貧困の撲滅を使命に活動する国連唯一の食糧支援機関です。東日本大震災においては、日本政府、被災地の自治体、災害対策本部、NPOなどと密接に連携をとりながら数々の緊急支援プロジェクトを実施しました。その際、日産自動車より提供された2台の「パトロール」が、スタッフや資材の輸送に大活躍してくれました。震災発生当初、瓦礫が道路の一部をふさぐなど、一般車両では通行が難しい状況下でも、パワフルで堅牢な「パトロール」は安心して走行することができました。

震災発生直後に車両提供の申し出を頂いたことで、WFPの活動はスピードと機動力を得たと同時に、効率的な支援が可能になりました。日産自動車の車両提供は、被災地支援を担うWFPほか各団体の活動に大きく貢献し、ひいてはそれが被災地の方々へも力強い励ましのメッセージとして確かに伝わったのではないのでしょうか。

## Area Leaders' Messages

日産のCSR 重点8分野 オーナーメッセージ

**災害支援を通じて得た経験を今後の活動にどう生かすか**

CSR部  
主担  
菟田 雄士



2011年度は東日本大震災のみならず、タイでの洪水、「アフリカの角」での食糧危機、近畿地方を中心に発生した台風など、多くの自然災害に見舞われた一年となりました。あらためて被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。当社操業への影響は、積み重ねてきたリスク管理が奏功して極小化できた一方、自然災害の影響やその余波を考えずには、人も、社会も、そして社会に支えられる私たちのような会社組織も持続安定的に歩むことが難しい、ということを経験を通じて理解できた年だったと思います。企業の社会貢献活動を預かる部として、すでに今ある仕組みや基準、プロセスや考え方をあらためて点検し、将来的な脅威に備えたいと思います。